

主 題：主がまず愛してくださった 1

聖書箇所：ヨハネの手紙第一 4章19節 (3章11-24節)

I ヨハネ 4：19「神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。」。3：11から「:11 互いに愛し合うべきである」ということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。:12 カインのようであってはいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです。:13 兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。」。

今週から、「互いに愛し合うこと」について学んでいきます。最初に見たように、神が私たちを愛してくださった、そして、その神が私たちに言われることは3：11「互いに愛し合うべきである」です。そのことを主は私たちに命じておられるのです。今、「命じられている」と言いましたが、実は、11節のみことばは命令形で記されていません。これはどちらかと言うと「勧告、奨励」です。どうして命令形ではないのか？それはこの兄弟を愛する「愛」というのは命令されてするものではないから、義務でするものではないからです。それは私たち信仰者が人々をそのように愛していきたい、そのように接していきたいと願って喜んでするものだからです。しかも、この「愛し合うべきである」ということばは現在形です。継続してそのように行ない続けていきなさいという、その勧告、奨励が11節の初めに記されているのです。

なぜ、ヨハネが人々にこのようなことを勧めたのでしょうか？なぜ、彼は教会の人々に「互いに愛し合っていていきなさい」ということを勧めたのでしょうか？それには大切な理由があります。実は、偽教師たちが活発に働きを為していたのです。偽教師、偽りの教えを持ち込む者たちです。彼らは神学的に誤った教えを持ち込んでいました。また、同時に、倫理的に誤った教えを教会の中に、クリスチャンたちの間に持ち込んでいたのです。実は、そのことをヨハネが私たちに教えてくれます。

#### ☆偽教師たち

##### 1) 教理的に誤った教え

###### (1) イエスがキリスト（神）であることを否定

I ヨハネ 2：22には偽教師たちが教会の間に持ち込んでいた偽りの教理についてこのように言っています。「偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否認する者、それが反キリストです。」と。ですから、偽りの教師たちはイエスがキリストではない、イエスは救い主ではない、イエスは待望の救世主ではないと教えていたと記されています。

###### (2) イエス・キリストが人として来られたことを否定

また、II ヨハネ 7には「なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。」とあります。ここにはイエス・キリストが人として来られたこと、つまり、神が人となられたことを否定すると教えています。

ですから、少なくとも、この二つの箇所から偽りの教師たちが持ち込んだ教理的な誤りがどのようなものが分かります。イエスは救い主ではないと教え、神が人となって来られたことなど信じがたいとして、彼らは誤った教えを伝えていたのです。

なぜ、ヨハネはその誤った教えに対してこの手紙を書いたのか？ヨハネはこの当時、小アジアと呼ばれた、現在のトルコに当たりますが、その地域にあって大切な役割を担っていました。恐らく、彼はこの小アジアの教会の責任者だったのでしょうか。ですから、この地域の教会に様々な誤った教えが入って来たことを見て、彼は愛する兄弟姉妹たちがしっかりと真理に立つようと真理を教えるのです。I ヨハネ 2：26に「あなたがたを惑わそうとする人たちについて以上のことを書いて来しました。」とある通りです。恐らく、このとき、ヨハネはエペソの町にいたと言われています。今でもエペソにはヨハネが居たと言われる遺跡が残っています。そこでこのような様々な誤った教えに対してヨハネはこの手紙を記して、信仰者たちがしっかりと神のみことばに立つようと勧めるのです。

## 2) 倫理的に誤った教え

偽りの教師たちが持ち込んだ教えは神学的に間違った教えだけでなく、倫理的に誤った教えも持ち込んでいました。この偽りの教師たちは自分たちは神を知っていると言いながら、その生き方は神の前に正しくなかったのです。また同時に、彼らは無慈悲でした。なぜなら、彼らは自分たちは霊的なエリートであると思っていたのです。自分たちは神から特別な霊的祝福をいただいた者であるとして、そうでないクリスチャンたちを見下し、軽蔑していたのです。ですから、なぜ、ヨハネが「互いに愛し合うことが必要だ」と教えたのかがよく分かります。教会の中であって、人々がさばき合っている様子、人々が一つになっていない様子、人々が愛し合っていない様子を伺い知ることができます。だから、ヨハネはそのような歩みは間違っている、本来は、互いに愛し合うような集まりでなければならないと言うのです。

今日のテキストである3：11を見ると「互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。」と教えています。ヨハネはこのような間違った教えに対して、私たちは主イエスからこの教えをいただいたと言います。I ヨハネ1：5を見てください。「神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。」とあるように、あなたがたはそのメッセージをもうすでに聞いて来た、だから、かつてのその真理にしっかり立つようにと読者を励ますのです。

さて、「愛し合うべきである」というヨハネの勧告の大切さ、重要さはどこにあるのでしょうか？ヨハネは二つの理由を挙げています。

☆どうして、この勧告が重要なのか？

### 1) 救いの確証を得るため

「私は確実に救われている」という確証を得るためです。3：10をご覧ください。「そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」、ここには二種類の子どもたちが記されています。「神の子ども」と「悪魔の子ども」です。私たち人間はこのどちらかに属しています。その中間はありません。そして、10節にはそれぞれの特徴が記されています。

悪魔の子ども＝①義を行なわない。すなわち、正しいことを行なわない者です。

②兄弟を愛さない。

神の子ども＝①義を行なう。神の前に正しいことを行なう者です。

②兄弟を愛する。

ですから、この学びによって私たちは自分の信仰が本物かどうか、私の信仰は神の前に正しいものかどうか、本当に罪の赦しをいただいているのか、そのことを知るために私たちはこのヨハネの勧告にしっかりと目を留めることが必要です。ですから、この学びを通して、願わくは、ここにおられるすべて皆さんが「私は間違いなく、確実に救いに与っている」とその確証をご自分のものとしていただきたいのです。

### 2) 神のみこころを実践するため

同時に、「神が私に求めておられること」を再確認して実行するためです。多くの皆さんはそのような歩みをしておられると思います。それなら、益々そのように歩んでいきなさい、そのことを神が望んでおられるからと、改めて自らに問いかけることになります。

この勧告はよく分かっているし、よく聞いています。しかし、実践は非常に難しいことも知っています。「人を愛する」ことは本当に難しいことです。ここにもし条件が付いていたら楽です。「あなたの好きな人だけを愛しなさい、あなたによくしてくれる人だけを愛しなさい」と。みことばはそのようには言っていません。「互いに愛し合いなさい」です。これまでの自分の信仰生活を振り返ってみてこのことは不可能と思えるかもしれません。しかし、神は実現可能だと言われます。

☆「神に喜ばれる生き方」が実現可能である理由

3：9をご覧ください。「だれでも神から生まれた者は、罪のうちは歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちは歩むことができないのです。」と。ヨハネはここで「罪のうちは歩むことができないのです。」と言っています。つまり、神によって救われた

者たちは、これまでと同じ生き方が継続できないと言うのです。これまでの神に逆らっていたときの生き方を、信仰をもった人がそれ以降も同じように継続していくことは不可能であると言っているのです。なぜなら、救いはその人を新しく生まれ変わらせるからです。そのことをヨハネはここで私たちに教えるのです。どうして、神によって救われた人が新しい歩みを始めることができるのか？二つの理由が挙げられています。その人には（１）神の種が与えられたから、その人は（２）神のご性質をいただいたからです。神によって救われた者たちがこれまでと同じ生き方を継続して習慣的に行なえない理由です。イエス・キリストを信じた後も、悲しいことに、信じる前と同じような罪を犯すことがあります。しかし、変わったことは、これまでは平気で罪を犯していたけれど、主によって救われた者はその瞬間から平気で行なえなくなっていくのです。罪に対して責めがやって来ます。あなたがしていることは間違っているという責めを神は与えてくれます。ですから、このヨハネのことばでは「罪のうちは歩みません。」

「罪のうちは歩むことができないのです。」と、生き方がまったく変わるということです。ここにおられる信仰者の皆さんは、罪を犯したとき自分の心が涙を流していることに気付くはずですが、神はあなたの心に「あなたは間違っている」と示してくださるのです。そのような変化をあなたは間違いなく経験しておられるでしょう。残念ながら、私たちは完全に罪を犯さなくなったのではありません。その日を待っています。そして、私たちは救われた者として少しでも神に喜んでいただきたいと願っています。

#### １）神の種が与えられたから

３：９「神の種がその人のうちにとどまっているからです。」、だから、これまでと同じ生き方ができないとヨハネは言います。「神の種」とはいったい何でしょう？これは「新しい生き方の原則」のことです。つまり、聖霊なる神が罪人のうちに働くのです。聖書のみことばを用いてその人のうちに働き、その人を救いへと導いてくださるのです。そのときに、聖霊なる神はその救いに与ったひとり一人に新しい、神に喜ばれる生き方の原則を与えてくれるのです。だから、救われた者たちは「このように生きていきたい、このように生きて神を喜ばせたい」という思いをもって生きる者へと変わるのです。もちろん、この「種」とはⅠペテロ１：２３「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。」や、ルカ８：１１「このたとえの意味はこうです。種は神のことばです。」から「みことば」と教えられています。ここでヨハネが教えようとしたことは「神の種」とは「神に属する種」です。そのような書き方をしています。ですから、「聖霊」とか「みことば」というよりも、神ご自身が救われた人たちのうちに新しく与えてくださる原則のことです。

ジョン・ストットという神学者はこのように言っています。「新生は新しい性質の獲得でもあって、それはいのちを与える神の力がまさに種として、私たちのうちに蒔かれることである。神によって生まれることは深く、根本的、かつ内的な変貌であり、さらに、新生時に与えられたこの新しい性質はいつまでも留まるのである。それは聖さに対する強い内的渴仰を与えるが、それは「神から生まれた者」にある「神の種」による内在的影響である。」と。救いによって私たちは新しい性質をいただくのです。そして、その新しい性質が神に喜ばれる生き方へと私たちを導いていき、その生き方に渴きを覚えさせると言います。だから、私たちは神の前に喜ばれることをしていこうとするのです。「新しい生き方の原則」を神はくださったのです。

しかも、その「種」が「その人のうちにとどまっている」と言います。この「とどまっている」という動詞は現在形です。つまり、ヨハネはその「新しい原則」が留まり続けると言うのです。新しく生まれ変わった人は、新しい思いをもってずっと生き続けていくということです。なぜなら、神のくださる救いは永遠のものだからです。神によって救われた人は永遠に救われたのです。ですから、与えられる「新し

い原則」もその人のうちにとどまり続けていくのです。救いが永遠のものだからです。

ですから、救われた者がこれまでと違う神に喜ばれる生き方をすることがどうして可能になったのか？「神の種」が私たちのうちにとどまっているからです。

## 2) 神のご性質をいただいたから

もう一つの理由を見ましょう。「その人は神から生まれたので、」と続いています。9節の初めにも「神から生まれた者は、」とあります。私たちがこの地上に生まれ出るとき、間違いなく両親のいろいろな性質を受け継いでいます。神によって生まれた者は神の性質の一部をいただいているのです。ですから、新しく生まれ変わった者は、キリストが歩まれたように生きていきたいと思います。私たちを生まれ変わらせてくださった私たちの主であるキリストが生きたように私たちも生きていきたいと、そのような思いを私たちに与えてくれるのは、私たちのうちに神の性質をいただいているからです。Ⅰヨハネ2：6には「神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」とあり、新しく生まれ変わった者はこのように歩んでいきたいのです。

また、私たちがキリストのみこころに従って生きていきたいとすることについて、パウロはこうに言っています。Ⅰコリント2：16「いったい、『だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。』ところが、私たちには、キリストの心があるのです。」と。この『』のところは旧約聖書イザヤ書40：13のみことばの引用です。当然、この問いの答えは「ノー」です。だれが主のみこころを知ることができるのか？だれもできません。また、「主を導くこと」こと、主に知恵やアドバイスを与えるような者がどこにいるか？どこにもいません。それが私たちです。ところが、パウロは言います。「ところが、私たちには、キリストの心があるのです。」と、つまり、生まれながらの私たちは神のみこころを知ることにはなかったのです。この「キリストの心」の「心」ということばは、Ⅰコリント14：14、15、19には「知性」と訳されています。「14:14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈るが、私の知性は実を結ばないのです。」、「15 ではどうすればよいのでしょうか。私は霊において祈り、また知性においても祈りましょう。霊において賛美し、また知性においても賛美しましょう」、「19 教会では、異言で一万語話すよりは、ほかの人を教えるために、私の知性を用いて五つのことばを話したいのです。」。神の救いに与る前、私たちは神にみこころを知ることでもできなかったし、まして、神の知恵を理解する知恵などなかったのです。でも、私たちが神によって生まれ変わったことによって、私たちは神のみこころを知ることができ、神の知恵を知ることができると言うのです。

皆さん、「救い」とはすごいものだと思いませんか？パウロが教えてくれたように、イエスによって救われたあなたのうちにはキリストの心があるから、神のみこころを知ることができるのです。あなたはただ神のみこころを求めるだけでなく、それを悟ることができるのです。みことばを通して神はそのことをあなたに教えてください、あなたはそれを知ることができるのです。こんな特別な関係に私たちは招き入れられたのです。これが神が約束された救いなのです。私たちはこのように救われた者だから、これまでの生き方とは違って、神が喜んでくださる生き方を行なうことができる者へと生まれ変わったのです。

今日のテキストに戻って、「互いに愛し合いなさい」とヨハネは告げました。そして、なぜ、それが可能なのか？私たちには神の種が留まっているし、神によって生まれ変わったから、私たちは神のご性質をいただいている、だから、私たちは神が望んでおられるように歩んでいくことが可能になったと言うのです。次に、Ⅰヨハネ4：7-8を見てください。「7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」と。7節にも「私たちは、互いに愛し合いましょう。」とあります。なぜ、それが可能なのか？ヨハネは続けます。「愛は神から出ているのです。」と。最初に読みましたが、4：19「私たちは愛しています。」、なぜですか？「神がまず私たちを愛してくださったからです。」、私たちが神の愛をもって兄弟を愛することができるのは、無条件で愛される神を私たちはいただいたからです。イエスを信じている人、神によって救われている人の心には神が内住されています。あなたのうちには生きた真の神が住んでおられるのです。その神とはヨハネは「愛」だと言うのです。私たちを無条件の愛によって愛してくださった方です。その「愛なる神」がうちにいるから私たちはその愛によって愛することができるとヨハネは教えているのです。

ですから、私たちのうちにたとえば強い意志であるとか、そのようなものがあるということではないのです。ヨハネが言うのは、愛の源である神があなたのうちにいるから、あなたは愛することができる者となったということです。神はあなたをこのような人へと生まれ変わらせてくださっているのです。あなたが生まれ変わるのではありません。イエス・キリストによって救いをいただいたその瞬間に、このようなことがあなたのうちに起こっているのです。神の愛をいただいたから、私たちは互いに愛し合うことができるということです。もちろん、それを邪魔するものがたくさんあることを私たちは知っています。私たちの罪が、そのような歩みを私たちが行わないようにと誘惑することも知っています。でも、少なくとも、まず皆さんに分かっておいていただきたいことは、ヨハネは「互いに愛し合うべきです」と言って勧めを為しましたが、このような愛をもって兄弟を愛し続けていくことは可能だ、あなたは生まれ変わったからのだから、ということです。そして、兄弟を愛しているなら、その行ないはあなたが救われていることの証だと、そのように教えているのです。

もう一度、今日のテキストに戻って続いて見ていきましょう。

## ☆「互いに愛し合うこと」について

### 1. 神からのメッセージ 11節

11節に「互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。」「聞いている教えです。」とあります。先に見た1:5では「知らせ」と書かれています。新約聖書にはここにしか記されていません。「教え、知らせ、報告、メッセージ」です。最初にも説明したように、ヨハネは自分が思いついたことを話しているのではなく、イエス・キリストから聞いたこと、そのメッセージをあなたがたに伝えたと言います。そして、「初めから」とは読者たちがこのメッセージを聞いて、このメッセージを信じたときからです。あなたがたはずっと聞いているではないですか？と。ご性質が「愛」という神を信じた私たちは、その愛をもって兄弟姉妹を愛することができる者へと変わったと。

こうして、イエスが語られたことを私は語っていると言うことで、ヨハネは自分自身の語るメッセージの信憑性を明らかにしています。なぜなら、偽りの教師たちは自分たちの教えを持ち込んだからです。そこでヨハネは「私があなたがたに教えたこと、今も教えていることは、神が教えられたことだ」と、そのように語るのです。

### 2. 兄弟を愛さなかった「カイン」 12-13節

さて、「互いに愛し合いなさい」は神からのメッセージであり、神が私たち信仰者に望んでおられることです。そのことを語ったヨハネは12節から、その神のみこころに従わなかった一人の人物を例に挙げています。カインのことがここに記されています。12節「カインのようであってははいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです。」と、兄弟を愛することに関する悪い例をここで挙げています。ほとんどの皆さんは創世記4章1-8節に記されているカインとアベルの話をご存じだと思います。後で振り返りますが、カインについて12節のみことばは、彼がどのような人物であったのかについて二つの説明を示しています。一つは「悪い者から出た者」、もう一つは「兄弟を殺しました」ですが、これがヨハネが記したカインに関する説明です。

#### ◎カインについて

##### 1) 悪い者から出た者

この「悪い」とは「邪悪である、悪」という意味をもつことばで、そして、「出た者」とは「属する者」という意味です。邪悪な者から、悪い者から出て来て、その影響をしっかりと受けている者、もっと言えば、「悪い者に属している者である」と言うのです。それでヨハネはこのⅠヨハネ3:10で「神の子ども」と「悪魔の子ども」ということを書いたのでしょうか。文脈を見ると、このことは継続しています。その中でカインのことを話すのです。「彼は悪い者から出た者で、」と。なぜ、カインは兄弟を愛さなかったのか？それは彼は悪い者から出た者だから、つまり、サタンに属する者、サタンの子どもであったからとヨハネは言うのです。

##### 2) 兄弟を殺した者

人類最初の殺人が創世記4章に記されています。彼が兄弟を殺したこと、殺人を犯したことを見るだけでも、この人物がサタンに属していることは明らかです。なぜなら、ヨハネ8:44には「あなたがた

は、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」と書かれているからです。「悪魔は初めから人殺しであり、」、ですから、その人の行ないを見ると、その人の主人がだれか、父親がだれか明らかだと言うのです。サタンの子どもであるならサタンの喜ぶことをやっている、それがその人の特徴である。その人が神の子どもであるなら神が喜ぶことをやっている、それによってだれの子どもなのかが明らかだと言うのです。3：12でヨハネは、カインの行なった行動を説明しました。カインは人を殺した、それは彼がサタンに属する者だったからと。その後でこのように続けています。「なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです。」と。ヨハネが言いたかったのは「悪い者の特徴」です。

## ◎「悪い者」の特徴

### 1) 正しいことを憎む

12節には「自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです。」とあります。カインはアベルが正しいことを行なったから殺したと言うのです。ヨハネはこれは「悪い者の特徴」だと言います。悪い者、つまり、サタンに属する者は正しいことを憎むのです。皆さんが神に喜ばれることをしていこうとするときに、それを憎む人たちはサタンに属している人たちです。ダビデもそのことをこのように言っています。詩篇38：20を見てください。「また、善にかえて悪を報いる者どもは、私が善を追い求めるからといって、私をなじっています。」と。ダビデは自分自身が抱えていたその苦しみの原因は自分自身の罪にあることに気付かされます。そこで、ダビデはその罪を神の前に告白するのです。ダビデは神の前に正しく歩んでいきたいと願ってそのように生きていました。そのダビデがこう言ったのです。「私は神の前に正しく歩んでいこうとしている。でも、私の敵はそれを見て私をなじっている。私を苦しめている。」と。箴言29：10には「血に飢えた者たちは潔白な人を憎み、正直な人のいのちをねらう。」とあります。

ですから、この悪い者の特徴の一つ目は、ヨハネが教えたように「正しいことを憎む」です。カインは悪い者であったために、弟が神の前に行なった正しいことを憎んだだけでなく、正しい弟に対しても憎しみを持ったのです。その出来事を振り返って見ると、カインとアベルはそれぞれ主の前にささげ物を持って来ます。アベルは彼の羊の初子の中から最良のものを、自分自身で持って来ました。カインは地の作物を持って来ました。創世記4：4-5「アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た。【主】はアベルとそのささげ物とに目を留められた。5 だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。」とあります。そして、カインは弟に話しかけるのです。「野に行こうではないか。」と、そして、野で彼を殺してしまったのです。

いったい、アベルがどんな酷いことをしたのでしょうか？悪い者は正しいことを行なう者たちを受け入れられないのです。そのような人たちに対して憎しみを抱くのです。ですから、私たちの今のこの時代でも、あなたが主の前に正しく生きていこうとするとそれを喜ばない人たちが周りにたくさんいます。本来なら、あなたが神に喜ばれる人になっていこう、愛ある人になっていこうとするなら歓迎するはずなのに、この世はそうにはしないのです。不思議です。優しい人になった、親切な人になったと歓迎すべきところを世の人々はあなたを歓迎しないのです。なぜなら、悪い人の特徴は「正しいことを憎む」からです。そのようにみことばは教えています。

悪い人はそのように正しく歩んでいく人を憎むだけではありません。正しい神を憎んでいます。その証拠に、ご自分のいのちという尊い犠牲をもって罪の赦しを備えてくださったこの神に対して、自分の罪を悔い改めて救いを頂こうとしません。このすばらしい神を信じることをしないだけでない。神が大きな犠牲をもって備えてくださった救いを必要ともしないのです。救いを侮辱しています。だれ一人としてその救いに感謝しないからです。だから、今私たちは周りを見てよく分かるのです。サタンに属する者たち、サタンの子どもたちは正しいことを憎む者であると。まさに、カインはそのような者であったとヨハネは教えます。

### 2) 神への怒りがあった

「悪い者の特徴」の二つ目は、先ほど読みましたが、カインの様子を見たときにそれが分かります。「神への怒り」があるのです。創世記4：5に「だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。そ

れで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。」とありました。そこで、主はカインにこう仰せられます。6節「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。」と。悲しいことに、悪い人は自分の思い通りにならないと神に対し怒りをもちます。箴言19：3でソロモンが正しくこのように言っています。「人は自分の愚かさによってその生活を滅ぼす。しかもその心は【主】に向かって激しく怒る。」と。自分が選択したことが誤っていたのに、そして、その結果が自分に返って来ているのに、反省することなく、神に対して怒ると。だから、愚か者なのです。私たちひとり一人は自分の選択に対する責任を負っています。しかし、残念なことに、悪い者たちは自分で責任を取ろうとしないで、それをだれかのせいにし続けるのです。

怒りを持ったカインに対して神は言われました。4：7に興味深いことが記されています。「あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」と、非常に大切なことが言われています。実は、この「罪は戸口で待ち伏せして、」とある「待ち伏せして」という動詞のヘブライ語はここで比喩的に用いています。実は、このことばの意味は「伏せている、横たわっている」です。ここで著者はこれを比喩的に用いて、あたかも、獲物に飛びかかろうとして身を伏せている動物、まさに、そのような状況を言っているのです。では、だれが身を伏せて飛びかかろうとしているのでしょうか？それは「罪」だと言います。「罪」がまさにそのようなことをしようとしていると言うのです。「罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。」と。

私たちには選択があるのです。でも、間違った選択をすると、私たちは罪の深みへとどんどんはまっていくということなのです。私たちが神の前に正しくない選択をするなら、それは間違いなく、連鎖反応を起こしてどんどん罪の深みにはまっていくということなのです。罪はそういう機会を狙っているのです。望んでいるのです。今まさに、襲いかかって食べ物にしようとする生き物のように、あなたが間違った選択をするときに、サタンはそのあなたのうちに働いていき、あなたはどんどん罪の深みにはまっていくのです。だから、正しい選択をなさйтеということなのです。そして、誤った選択の責任はひとり一人にあるのです。だれかのせいではないのです。みことばが「正しい選択をしていきなさい」と教えています。悪い人は自分の誤った選択の責任を自分以外のところに向けます。そして、究極的に神に対して怒りを覚えると言います。

### 3) 正しい者を迫害する

悪い者は常に正しい者を迫害します。Iヨハネ3：13を見てください。「兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。」とあります。ヨハネはここで「兄弟たち」と呼びかけています。「あなたがた」と言わずに「兄弟たち」と言っているのです。なぜなら、あなたたちが神の前を正しく歩んでいこうとするなら世はあなたがたを憎む、その憎む対象の中にヨハネ自身も含んでいると言っているからです。あなたがたが憎まれるのではない、私も憎まれて来ていると。すべての信仰者に共通していることを、ヨハネはここで言っているのです。サタンの子どもであった悪い者カインが、神の子どもであった正しい人アベルを迫害したように、サタンが支配しているこの世の中も、神を愛する者たちを迫害し続けていくのです。なぜなら、この世の中は神に逆らうゆえにサタンの影響を受けているからです。

ヨハネの福音書15：18－20に「もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。：19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。：20 しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。」とあります。イエスご自身が憎まれたのです。そして、イエスに従うあなたがたも同じようになると、主ご自身がおっしゃいました。また、ヨハネ17：14にも「わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。」とある通りです。

### 結論

さて、今日のまとめです。ヨハネはIヨハネ3：11から「互いに愛し合いなさい」という勧告を与えました。それがどれ程大切なものであるかを見て来ました。今日、私たちがしなければいけないこと

は何か？ご自分に問いかけてみてください。「私は兄弟を愛しているかどうか？」です。なぜなら、兄弟を愛することが、あなたの信仰がどのようなものであるかを明らかにしてくれるテストだからです。あなたの信仰が本物どうか、その真理を明らかにしてくれるのです。神の子どもならば、少なくとも、私たちは「神さま、すべての人を愛していきたい」という願いを持っているはずです。それなら、どうぞ、そのように祈り続けてください。愛する兄弟姉妹たちに「どうぞ、私がすべての人を愛せるように祈ってください。」と助けを求めることです。なぜなら、神がそれを望んでおられるからです。もし、あなたの心の中にこの愛がなければ、あなたの信仰が本物なのかどうかよく考えてみる必要があります。

それぞれの行ない、それはその人の救いを明らかにします。なぜなら、その行ないは「心の鏡」のようなものだからです。それぞれの心の中を外に映し出しているものです。「あなたは兄弟を愛していますか？」と問われます。どうぞ、その問いかけに答えてみてください。感謝なことに、神の救いはあります。もし、あなたの救いがはっきりしていなければ、しっかりとこの救いを頂いて生まれ変わることです。なぜなら、神が救われたひとり一人に望んでおられることは「互いに愛し合うこと」だからです。だから、それを神の助けを頂きながら実践しましょう。そのことを神は私たちに望んでおられます。

#### 《考えましょう》

1. ヨハネが教える、救われている人の特徴を挙げてください。
2. それらを、実践することはどうして可能なのでしょうか？
3. 兄弟を憎むことはどうして間違っているのでしょうか？
4. どうすれば、より兄弟を愛することができるようになると思いますか？